

紋別・美幌闘争団を迎え県下オルグを実施！

冬期物販・ホタテに全力をあげ、年度末までの闘いに集中しよう！



発行所
国鉄労働組合長野地方本部
長野市中御所3-2-22
発行者 平山 芳 夫
編集者 清 水 孝 次

2008年12月1日
第1460号

●国労加入を
大胆に訴えよう！



11月10日、長野県労組会議、長野地区労組会議、国労長野地本の共催で「紋別・美幌闘争団オルグ国鉄闘争報告集会」が開催された。支援共闘、国労組合員など100名が参加した。

「一歩を踏み出した一年」
主催者を代表してあいさつに立った高橋県労組会議議長は「紋別・美幌闘争団の支援再開ができたことが一番大きな出来事です。まるで六年間のブランクが無かったかのよう

に手をつないで闘っていきける状況ができた一年間でしととにも「10月24日に開かれた全国集会は昨年を上回る一万千名を超える大集会となり、この闘いに勝利する姿勢がはっきりしてきた。」

今年に勝利に向けて一歩踏み出せ、最終局面での詰めをどうするかという所まで追い詰めた実感した」と一年を振り返った。

「普通の家庭・生活を取り戻したい」
闘争団の報告で、美幌闘争団長は「初めて長野にオルグに入った時は、明日の食事、自分がどうし

長野駅頭で地本独自行動を展開！

11月9日、日曜日の夕方までにぎわう長野駅頭において、紋別闘争団・清野団長と美幌闘争団・長縄団長にマイクを持っていただき、JR不採用問題の早期解決と闘いの現状を市民に訴えた。

また、地本独自作成のチラシを、組合員30数名で行き交う人々にていねいに渡した。平山委員長、佐藤書記長もマイクを手

に、JR不採用問題とともに、2014年の北陸新幹線開業に伴う並行在来線（信越線長野～直江津間）問題、アルピコグループの私的整理に端を発した赤字バス路線の廃止問題等について訴えた。

午後4時から1時間ほどの行動であったが、受け取ったチラシに見入る人、チラシを手に組合員に話しかけてくる人など様々な反応があった。



市民に訴える長縄団長



一人ひとりにチラシをわたす組合員

たいのか不安を持つてのオルグでした。長野の皆さんからの声かけ、物販への協力を目的にしたりして、私たち闘争団への支援の気持ち強く届きました」と感謝を述べた。また「何となくもこの時期に解決をさせ、普通の家庭・生活を取り戻したい。22年間闘ってきた闘争団員・家族は勝利すること、政府側の整理ができて、また、政府側に、不当なことをすれば労働者の怒りを買うことを示したい」と闘いの決意を力強く語った。

「最大のチャンス
これからが正念場！」
紋別闘争団清野団長は「2度目の解雇をされて19年、けんか腰で闘ってきた、最大のチャンスが来た」と確信している。これからが正念場であるし、ミスが許されない時期に来ている」と述べ、さらに「控訴審の判決前に政府に決断を求めて解決して行かない限り、求めて3つの要求が叶えられるものではない。今日

まで闘ってきた力と支援いただいた皆様の力を集中させて解決していきたい。来年は物販オルグではなく勝利報告で県内を回りたい」と訴えた。

つづいて闘争団への激励カンパが、県支援共闘、長野地区労組会議、国労長野地本、東北信支部、車両所支部、鉄道退職者の会から両闘争団へと手渡された。

最後に、長野地区労組会議神山議長の団結カンパローで集会を終了した。

↑2面にも記事

10日の国鉄闘争報告集会では、社会保険庁改革問題、アルピコグループの私的整理と赤字バス路線問題について、社保労、アルピコ労組からの訴えがあった。

社会保険庁改革では、国鉄改革の時と同様の攻撃が社保庁職員にかけられている。また、全農林の仲間も統廃合による広域配転や退職を余儀なくされている。

労働者の首切りを許すな！ 国鉄改革と同様の手法！

社保労 長野県支部 西澤支部長の報告



社会保険事務所の職員が社会保険庁改革によって減らされている。

10月1日から、健康保険業務が全国健康保険協会（民営）に移行され、年金業務については、2010年1月まで社会保険事務所でを行い、最終的に民間の日本年金機構に引き継がれる。

政府の基本方針は、日本年金機構の定数10880人うち1000人は民間、9880人が現職から採用されるといふもので、現職員14000名全員の再雇用とはならない。

職員を一旦退職させ、再雇用（採用）にあたっては設立準備委員会が個別に採用を判断する。

政府は、社会保険の職場をダメにしたのは、ダメな労働者であるとし、業務時

「一人の首切りも許さない！」ためにも、私たちの闘いを進めていく上でも、こうした攻撃と闘う仲間を国労としてしっかりと支援していかなければならない。

一方、アルピコ労組の闘いでは、大きな成果を得たが、私的整理問題決着まで、今後の闘いが重要である。

ないとしている。さらに、時間内組合活動を行った職員も採用されない可能性もあり、国労の不採用事件に共通したものがある。

今後、分限免職を回避する努力を使用者側に求め、新しい職が斡旋されなかった場合、裁判闘争も視野に入れ、できることを一生懸命頑張っていく。

雇用を守り！ 住民の足を守る！

アルピコ労組川バス支部 二本松委員長長の報告



松本のアップルランドが閉店し、地域住民の生活の場がなくなり、時間をかけ遠くへ買い物に行かなければならず、お年寄りの生活圏が奪われて来ている。

交通関係では、松本電鉄・諏訪バス・川中島バス・アルピコハイランドバスを合併し、企業の再生を図る骨子を打ち出したが、交渉の中で組合としては、それぞ

れの地域性、補助金、行政の違いがあり、合併は無理であると話を進めてきた。

路線問題で、川バスの4路線廃止・7路線の見直しの申し入れに対し、県労組会議を中心に対策委員会を立ち上げていたとき、会社、長野市に対し継続を求めて申し入れた。

労働組合主催の各地区、県でのシンポジウム開催などにより、行政が動き路線バスの維持が出来た事は一つの成果であった。

地域の足を守るきつかけになればと思っている。

駅伝4連覇！5度目の優勝を達成！！ ＝第13回国労東日本本部マラソン大会＝

11月15日、例年よりも1週間遅く皇居で懐かしい顔に再会できた。かつて地域間異動の間、東京駅で一緒に仕事をした仲間と顔を合わせる事を楽しみに毎年開催される国労の皇居マラソン。

今回、僕ら長野チームの目標は4連覇して、それまで高崎チームが作った連覇記録に並ぶことでした。

地域間異動は僕が走り始めるきっかけで、皇居マラソン（駅伝）大会があることを知ったのも、参加したのも、地域間異動の時が最初でした。その頃は東京駅分会チームとして「打倒長野」が目標だったことが懐かしく思い出されます。全く個人的な話ですが、長野に帰ってから誘われるままに諏訪湖マラソンや長野マラソンに参加するようになり、何時も後からゴールをする僕を励ましてくれた国労の仲間いつか追いつきたい、追い越したい…の思いが練習

嫌いの僕を後押ししてくれた。おかげで昨年の長野マラソンでサブスリーも達成できました。

「今年はアンカーを頼む！」と轟君から言われ意気込んで走った…結果は区間7位（他のメンバーは全員区間1位と2位）一寸ガックリ…でも優勝チームのアンカーはメッタに経験できない5Kmでした。

来年は5連覇目指してがんばります。「マラソンはチームスポーツだ」と言った先輩の言葉を胸に！

篠ノ井運輸分会 柳原昭治

- ☆長野地本Aチーム 1位1:15:23
- ★長野地本Bチーム 4位1:18:43
- ★長野地本Cチーム 7位1:32:49
- 区間賞 2区2.5km 轟 勝
- 3区2.5km 関口 修
- 4区2.5km 平塚 隆
- ☆個人マラソン女子1位 吉江敏子0:24:30



4連覇を達成した長野地本の健脚の面々

年末手当獲得！

地本総決起集会を開催！

地方本部は11月11日、国労長野会館において「年末手当獲得！地本総決起集会」を開催した。

闘争団オルグ中であったが、約70名の組合員が結集し、年末手当満額獲得の闘いにむけ意思統一した。

あいさつに立った平山委員長は「三島・貨物会社の経営問題、構造的問題があり厳しい

状況の中、貨物会社は、完全民営化の道筋を立てるとし、『ニューストリーム200』による五二〇〇人体制に向けた要員削減を進め、効率化がさらに深度化している」一方で「今年度の中間決算は8年連続の赤字となる事が明らかとなった」

「社員の犠牲によって達成された赤字であり、生活費の一部となっている年末手当の満額獲得をめざす客貨一体となって中央の闘いに結びつけた闘いを行っていく」と力強く訴えた。

つづいて、貨物協議会林議長が貨物会社の情勢について報告し「和解はしても、

要求はきちんと行うのが国労の基本であり、しっかりと運動を進めていく」と締めくくった。

東日本会社の情勢報告は、佐藤書記長が行い「労働条件改善と併せて、年末手当獲得の闘いを全職場からつとめていく」と述べるとともに、JR不採用問題を含めた当面する秋季年末行動の提起を行った。

車両所支部、東北信支部、中南信支部それぞれの代表から決意表明を受け、最後に、平山委員長の団結ガンバローで集会を終了した。